

「みやざき就農“応援”相談会 2021」を開催しました

県内で農業経営を始めたい方や、農業法人等に就職したい方を対象とした「みやざき就農“応援”相談会」を10月10日（日）にJA・アズムホール大研修室で開催しました。

この相談会は、就農を希望する方々が、農業・農村に対する理解や知識を深め、県内各地で就農・就職につながるようにと、毎年開催しています。

昨年度から新型コロナウイルス感染防止対策のため予約制とし、会場内が密にならないように配慮しながら開催しました。

相談ブースは、「就農相談」、「ハローワーク就職相談」、「JAグループによる研修相談」、「みやざき農業実践塾」、「お試し就農」、「ベテラン農家さんのアドバイス」や、15市町・7JA等のブースを設け、計22ブースで相談に応じました。

当日は、37組38人参加され、栽培品目や販売方法、就農支援、研修や就職について等、様々な相談がありました。

今回は、県外から直接参加できない方のために、オンライン相談も行いました。

参加者の中には、相談会後も各地域で相談を継続され就農に向けた準備を進めている方もおり、今後、研修や就職等につながることを期待しています。

【担い手支援課】



会場の様子



千葉県在住の方とオンラインでつないで対応



ニュースにも取り上げていただきました

人・農地課題解決ワークショップを開催しました

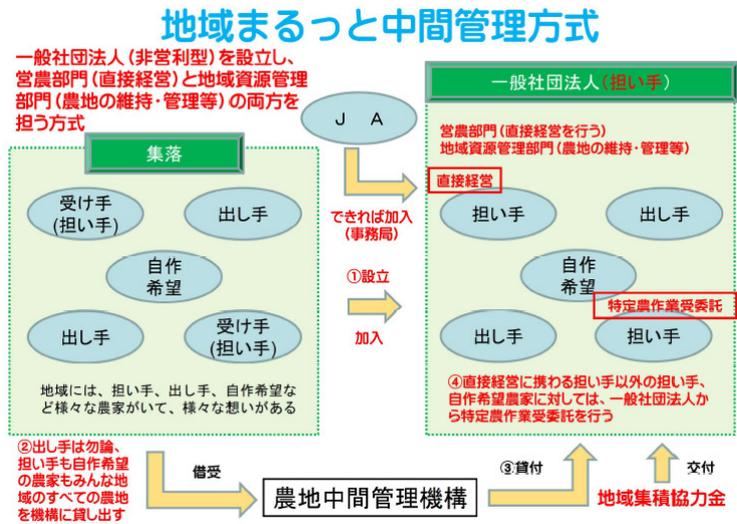
県外の先進的な取組みを参考に地域の担い手への農地集積・集約化をより一層推進する目的で県、市町村、農業委員会、JA、公社等の実務担当者を対象に県との共催により「人・農地課題解決ワークショップ」を開催しました。

10月1日には、「農地中間管理事業をフル活用！地域まるっと中間管理方式とは？」と題し、魅力ある地域づくり研究所代表の可知祐一郎氏にオンラインで講演をいただきました。

地域の農地をまるごと農地中間管理機構を通じて一般社団法人(非営利型)に貸し付け、この法人が農地利用を調整することで担い手と自作農希望農家が共存できるこの方式は可知氏が愛知県農地中間管理機構在職時代から提唱してきたものです。

また、農地の受け皿を一般社団法人化することで、地域住民が皆で農地と農村を守る目的で地域の商工業者などからも出資を募ることができるメリットがあります。

本県では、この方式を参考に「集落まるごと農地バンク方式」を提案しており、担い手の確保が困難な中山間地域等での活用を進めてまいります。

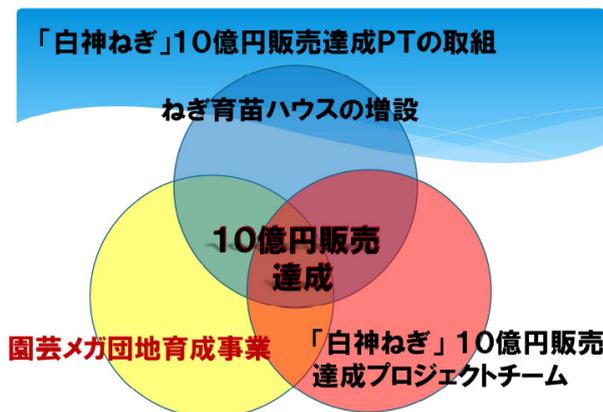


11月18日には、県総合農業試験場にてJAあきた白神営農部の佐藤和芳部長を招き『「白神ねぎ」と園芸メガ団地の取組』と題して講演をいただきました。

この取組ではJAが主導し行政との連携により、「ねぎ10億円販売達成プロジェクトチーム」を平成25年2月に発足し、ねぎ作付面積の拡大、ブランド化による販売単価の向上、生産部会活動強化による反収向上等の取組みなど推進体制が強化されたことに加え、平成24年度の「ねぎ育苗ハウスの増設」により、販売単価の高い時期に出荷可能な栽培体系の導入が可能となりました。

また、「園芸メガ団地育成事業(秋田県単独事業)」では、ある団地で担い手募集に応じた4経営体に対し基盤整備済みほ場20ヘクタールを調整し、これまで2ヘクタール程度が限界と言われてきた露地ねぎ栽培を農地の集約化と機械体系化を進めることで5ヘクタールの経営を可能にしました。その結果、平成27年にJAあきた白神のねぎ販売額は10億円を達成しています。

本県でも農地対策、基盤整備、生産振興の三者が連携した産地育成を進めており、公社では農地中間管理事業により農地の効率的な活用が実現できるよう取り組んでまいります。【農地第一課】



ワークショップの様子(11月18日)

みやざき食農連携プロジェクト(LFP)中間発表会を開催しました

12月6日に地域の食と農に関する多様な関係者が参画する“みやざき LFP プラットフォーム”において今年度取り組んでいるプロジェクトの中間発表会を宮崎県トラック協会で開催(85名参加)しました。

これまで研修会やワークショップを開催し、新たなフードビジネスへの取組について意見交換を行いました。それらを通じてLFPパートナー同士が連携し、数多くの新たなプロジェクトが生まれました。第1部では、その中から、現在進行中の8つのプロジェクトについて、その内容や進捗状況について各代表が発表し、第2部では5つのLFPパートナーが新たなプロジェクトに向けて連携を呼びかける等の自由発表を行い、第3部ではLFPパートナー同士が名刺や情報、意見を交換できる自由交流の時間を設けました。

この中間発表会がさらなる社会課題の解決と経済的利益の両立となる新たなフードビジネスの創出に繋がることを期待しています。 【新農業支援課】



第1部



第2部



第3部

令和3年度「みやざき6次産業化チャレンジ塾」

9月22日に開講した「みやざき6次産業化チャレンジ塾」は、12月10日段階で全10回のカリキュラムのうち8回が終了しました。

メイン講義の「6次化プランの作り方」では、6次産業化に取り組む上で軸となる「6次化プラン」を作成するために必要な考え方やモデル事例について学修し、それぞれが思い描いている6次化プランのブラッシュアップを行っています。

また、商品開発、販路開拓、情報発信(ホームページ、SNS)の講義では、各分野の専門家から、現在のコロナ禍により刻々と変化しているマーケットニーズを踏まえた実践的な手法について講義を行っていただきました。

最終回の1月14日には、チャレンジ塾での学修の成果として、塾生全員が自身の今後の6次産業化に向けた計画を「6次化プラン」として発表します。 【新農業支援課】



「6次化プランの作り方」講義風景



「販路開拓の基礎知識」グループワークの様子

令和3年度6次産業化促進交流会を開催します

令和4年2月21日、ニューウェルシティ宮崎において「6次産業化促進交流会」を開催することとなりました。

この交流会は、地域資源を活用した新商品開発や6次産業化等の新たな取り組みを促進するため、6次産業化に取り組む農林漁業者等を対象として実施するものです。

当日同会場では、宮崎県産業振興機構（フードビジネス相談ステーション）主催による講演会と商談会も開催される予定で、多くの食品関連事業者等との交流が期待されます。

現在、この交流会に参加する農林漁業者を募集していますので、お気軽に新農業支援課にお問い合わせください。 【新農業支援課】

開催日時：令和4年2月21日（月）午前10時から午後4時まで
開催場所：ニューウェルシティ宮崎2階（宮崎市宮崎駅東1-2-8）
提出書類：出展エントリーシート（公社HP新着情報よりダウンロード可能）
提出〆切：令和4年1月14日（金）

西諸第二地区3工区高原町1団地の工事が完成しました

令和2年度畜産担い手育成総合整備事業西諸第二地区3工区高原町1団地は、こばやし農業協同組合が管理する畜産施設の整備を行うものです。工事内容としては、飼料畑造成、排水路工、道路工があり、令和2年度から着工し11月2日に完成しました。

11月25日には、こばやし農業協同組合の理事に対して工事完了説明を行い、各理事からは「立派な施設を整備していただき大変良くなった」との喜びの意見をいただきました。 【畜産施設課】



こばやし農業協同組合理事への説明の様子

これからの行事予定

主催行事に★

日付	行事	会場	問い合わせ
1月14日(金)	みやざき6次産業化チャレンジ塾 閉講式	県庁講堂	新農業支援課★
1月29日(土)	新・農業者フェア（東京）	サンシャイン池袋	担い手支援課
2月21日(月)	6次産業化促進交流会	ニューウェルシティ宮崎	新農業支援課★

豊かな農業経営・新しい未来のために

発行 公益社団法人宮崎県農業振興公社
〒880-0913 宮崎市恒久1丁目7番地14
電話 0985(51)2011 FAX0985(51)8006